

前回の宇宙科学・探査小委員会の議論のポイント（案）

○国際宇宙科学探査に関するワークショップ

- ワークショップの参加者から SLIM の着陸地点に関して初めて聞いたとの声もあるので、科学コミュニティと JAXA との情報共有が重要。
- 国際宇宙探査の枠組で月・火星探査を行うことについて科学探査を行う側には科学探査への影響に関する懸念はあるものの、それに対する明確な答えはない状況でそれが課題。国際宇宙探査の状況を科学コミュニティにもっと提供すべき。

○月・火星に関するプログラム案

- 宇宙科学・探査小委員会として、検討しているプログラムでは、宇宙科学・惑星科学の中で月・火星科学をどう位置付けるかを明確にすべき。
- 構成として、「現在の状況」から次に「月・火星探査の進め方」とするのではなく、その間に科学探査の目標をもう少し内容を追加して記載すべき。
- 科学探査の目標の記述にあたっては、科学探査だけでなく、国際宇宙探査（Gateway）によって本来科学コミュニティが実施しようとしている探査ができなくならないように、「国際宇宙探査の中の科学探査と科学コミュニティの実施したい科学探査の整合性の確保」という観点も必要ではないか。
- 国際宇宙探査と宇宙科学の関係が不明確で、国際宇宙探査の枠内でしか当面科学探査が進まないということにならないように、科学探査もしっかり実施していくという点を明確にすべき。
- 記述の仕方として、月探査の各プロジェクトについて、探査の流れの各段階との対応を明記すべき。
- 宇宙工学技術の開発については戦略的な視点を強調してもよいのではないか。また、宇宙科学が宇宙開発自体の基盤であることも本資料に盛り込むべきではないか。
- 人材育成・確保については、国際宇宙探査に関するワークショップへの民間企業の技術者の参加を積極的に促すという点もあるのではないか。
- この案文では人材育成・確保について JAXA 中心に見える。具体案の実現という面では難しいかもしれないが、JAXA の外でも人材を育てていくための人材の流動性や国際交流も記述することはできないか。
- 人材について、JAXA は大学に期待しているが、大学側が置かれた環境が厳しいために、大学側が対応できていないという点があるのではないか。

○JAXA における月・火星探査も含む科学探査全体の状況について

- 「よりすぐれたミッション提案・創出への「敷居」をさげるために、ある技術

領域に先行投資する」という JAXA の新しい提案は、先行投資により、その対象技術領域を確立すれば、良いミッションが数多く生まれるという考えに基づくもので、新たな予算の獲得にもつながることを期待。

- 日本の独自技術で、優先的に開発していく技術として小型探査機の開発を示すことは対外的な説明にも効果的ではないか。

○資源について

- 「空間」も資源として扱うことを大事ではないか。
- 深宇宙に行く場合には原子力電池が重要であるが、月にある放射性物質を使うことができれば日本の科学探査を戦略的に進める観点からもメリットがあるのではないか。
- JAXA としての資源の定義が明確に示され、民間商業活動における資源との違いが明確にされたことは非常に良いことではないか。